

厚生労働科学研究
(子ども家庭総合研究事業)

地域における新しいヘルスケア・コンサルティング
システムの構築に関する研究

平成14年度研究報告書

平成15年 3 月

主任研究者 山 縣 然太郎

目 次

I. 総括研究報告

- 地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究 6
山縣然太朗、松浦賢長、山中龍宏、近藤直司、中村 敬、谷原真一、
豊嶋英明、玉腰浩司、長瀬博文、中村和彦、武田康久、水谷隆史、
近藤尚己、山田七重、葉袋淳子

II. 分担研究報告

1. 2002 年度における健やか親子 21 ホームページ運営・利用状況 13
葉袋淳子、山田七重、武田康久、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太朗
2. 取り組みのデータベース改良に向けての取り組み 21
山縣然太朗、松浦賢長、長瀬博文、玉腰浩司、水谷隆史、近藤尚己、
葉袋淳子、山田七重
(資料) 健やか親子 21 ホームページ取り組みデータベース版
3. 知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子 21 自由集会報告 41
ーテーマ 現場に生かすホームページの活用ー
山縣然太朗、小田心火、松浦賢長、長瀬博文、山田七重、葉袋淳子、
中村和彦、水谷隆史、近藤尚己、大森智美、白石裕子、
4. 乳幼児の誤飲に対する介入の中間報告及び健診を用いた事故の情報システムによる
小児事故の実態 54
山中龍宏、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太朗
5. 児童・思春期不適應の予防を目的とした母子メンタルヘルス活動のあり方についての研究 57
近藤直司、青木 豊、河西 文子
6. 1 歳 6 か月健康診断受診児の事故経験歴に関する調査 64
谷原真一
7. 市町村保健センターを対象としたヘルスケア・コンサルティングの実際に関する研究
～健やか親子 21 計画立案に関する第 2 段階：市町村がイニシアティブをとる段階～ 71
松浦賢長
8. 学校現場を対象にしたヘルスケア・コンサルティングの実際に関する研究 75
松浦賢長
9. 小学生における抑うつ度に関する研究 77
～健やか親子 21 に関連したベースラインの把握を目的として～
西能代、吉川りか、江崙和子、野村達哉、松浦賢長

| | |
|--|----------|
| 10. 妻の挙児希望と妻からみた夫のエゴグラム得点との関連 | |
| ～少子化に寄与すると思われる経済的因子以外の因子について～ | ----- 81 |
| 丸山智子、黒木ゆかり、児玉明子、宗里織、野本啓子、徳善加奈子、 樋口善之、松浦賢長 | |
| 11. 情報データベースの構築・評価に関する研究 | |
| －心身障害研究・子ども家庭総合研究報告書データベースのインターネット上の公開について－ | ----- 85 |
| 中村敬、斉藤 進 | |

地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究

主任研究者 山縣然太郎 山梨大学医学部医学科保健学Ⅱ講座 教授

【研究目的】本研究は、「健やか親子21」に資するため、地域ベースに着目した統合的な推進手法を開発し、一種のヘルスケア・コンサルティングシステムを提言することを最終目的としている。

【研究方法】研究を構成する骨子として、以下の3つのフェーズを提示する。まず第1に情報の集積・評価・活用を一元化したシステムの構築及び試験運用である。第2に、この情報システム等を利用した継続的な地域マーケティング・リサーチであり、今回研究フィールドとする地域集団の背後に存在する特性、課題を把握し、問題に対して地域の保有資源をいかに効率的に運用するかについて多面的に検討する。第3に当該研究フィールドにおける介入研究であり、前段のマーケティング・リサーチから明らかになった地域課題に対して実際に重点的に保健指導、環境整備等の介入をおこない、その効果について定量的、定性的評価を加えて、有効な地域ヘルスケア・プログラムに関する知見(Evidence)を蓄積するものである。

【結果と考察】①「健やか親子21」公式ホームページの構築・運営 母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のためにホームページ作成を提案し、「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営している。平成13年5月に公開、平成15年2月28日現在、約124,000件のアクセスを達成している。さらに、利用度解析により必要度の高いコンテンツから情報ニーズを抽出している。

②2つの母子保健関連データベースの更新と機能強化 ホームページには2つのデータベースを搭載している。一つは母子保健行政の一次資料となる2,830の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、1年間に約120の情報を追加できた。さらに、各種リンクにより一部内容へアクセスを可能にした。もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子21」の取り組み状況データベースである。取り組みデータベースは全く新しいコンセプトで構築されており、これを自治体の母子保健担当者の理解を促すこととデータベース情報収集を目的に研修会を開催した。

③2つの介入研究 山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践情報を得るために、小児事故対策の介入研究と、乳幼児健診を利用した母子関係のアセスメントとハイリスク児に対する介入研究の中間報告をまとめた。

④検討会・研修会 「健やか親子21」を推進する当事者と直接意見交換するために、学会を利用して「知ろう、語ろう、考えよう健やか親子21」の自由集会を実施し、地域でのコンサルティングの必要性について地域の事例を本に検討した。また、取り組みのデータベース研修会と併せて「健やか親子21」を踏まえた母子保健計画見直しの研修会を全国4箇所で開催し、現場の状況を把握した。

【結論】情報の集積・評価・活用について、地域での研修会およびホームページによるマーケティングリサーチによりその課題を把握できた。また、介入研究によってその効果について良好な結果を得た。これにより、継続的な地域マーケティング・リサーチ、介入研究といった一連の流れを一般化し、地域レベルにおいて、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施を即応的に行い、その評価をフィードバックするヘルスケアシステム・手法のプロトタイプを作成に向け重要な情報を獲得できた。

参考 「健やか親子21」公式ホームページURL：<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>

分担研究者

松浦 賢長 京都教育大学衛生学教室 助教授
山中 龍宏 緑園子どもクリニック 院長
近藤 直司 山梨県立精神保健福祉センター 所長
中村 敬 日本子ども家庭総合研究所 研究企画・情報部 部長
谷原 真一 島根医科大学環境保健医学第一講座 助教授

研究協力者：

豊嶋 英明 名古屋大学大学院公衆衛生学 教授
玉腰 浩司 名古屋大学大学院公衆衛生学 講師
長瀬 博文 富山県衛生研究所環境保健部 主幹
中村 和彦 山梨大学教育人間科学部 助教授
武田 康久 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 助教授
水谷 隆史 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 助手
近藤 尚己 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 助手
山田 七重 厚生科学推進事業リサーチレジデント
葉袋 淳子 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 技術補佐員

A. 目的

本研究においては、「健やか親子21」に資するため、この国民運動計画実施主体のうち特に地域ベースに着目した統合的な推進手法を開発し、一種のヘルスケア・コンサルティングシステムを提言することを最終目的としている。研究を構成する骨子として、以下の3つのフェーズを提示する。まず第1に情報の集積・評価・活用を一元化したシステムの構築及び試験運用である。第2に、この情報システム等を利用した継続的な地域マーケティング・リサーチであり、今回研究フィールドとする地域集団の背後に存在する特性、課題を把握し、問題に対して地域の保有資源をいかに効率的に運用するかについて多面的に検討する。第3に当該研究フィールドにおける介入研究であり、ここでは、前段のマーケティング・リサーチから明らかになった地域課題に対して実際に重点的に保健指導、環境整備等の介入をおこない、その効果について定量的、定性的評価を加えて、有効な地域ヘルスケア・プログラムに関する知見(Evidence)を蓄積するものである。

平成13年度に「健やか親子21」公式ホームページを立ち上げ、平成15年2月21日現在、約123,000件のアクセスを達成している。利用度解析により母子保健行政担当者の必要情報を把握している。

ホームページには2つのデータベースを搭載した。一つは母子保健行政の一次資料となる母子保健・医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等における健やか親子21の取り組み状況データベースである。一方、全国の約3200の市町村と全都道府県、保健所に対して、健やか親子21のベースライン調査を実施すると共に、IT利用状況とコンサルティングの現状を把握した。これがマーケティング情報となる。また、山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践データを得るために、小児の事故対策の介入研究と、乳幼児健診を利用した母子関係の把握と介入に関する研究を開始し、平成14年度にはこれらの継続的な研究に加え、取り組みのデータベースの充実をはかるために全国4箇所で研修会を開催してその普及に務めるとともに、このような新たなデータベース構築に関わる現場でのニーズと問題点を集約した。また、小児事故介入について島根県が参加する準備を整えた。3年目はこれらの継続的研究と総括にあたるが、ホームページや研修会による母子保健担当者のニーズ把握において既存データの利活用に関するコンサルティングの要求が高いことが判明し、新たに、国民栄養調査や国民生活基礎調査などの既存データの利活用に関する検討を加えることとした。最終的には、この一連の流れを一般化し、地域レベルにおいて、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施を即応的に行い、その評価をフィードバックするヘルスケアシステム・手法のプロトタイプを提示する。

B. 方法

1. 情報集積・活用システムの構築・発展

- ①「健やか親子21」公式ホームページの構築・運営 母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営をした。利用度解析により必要度の高いコンテンツから情報ニーズを抽出した。
- ②2つの母子保健関連データベース構築 ホームページには2つのデータベースを搭載した。一つは母子保健行政の一次資料となる2700余の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等におけ

る「健やか親子21」の取り組み状況データベースである。取り組みのデータベースは健やか親子21に関連して、都道府県、保健所、区市町村および関係団体が実施する母子保健サービスなどの取り組みのデータベースである。関係機関における健やか親子21の進捗状況を把握するとともに、これを利用することによって、市町村等関連機関の連携を深め、健やか親子21推進に役立てることを目的として、Web上での検索、登録ができる双方向のデータベースを構築した。

実際の運営を通して問題点を抽出する。

2. 介入研究

- ① 小児の事故予防介入プログラムの実施
- ② 「母親の抑うつ・養育上ストレス」、「母子関係と子どもの心理社会的発達」に関する介入プログラムの実施

3. 母子保健研修会、取り組みのデータベース研修会の実施

検討会・研修会 「健やか親子21」を推進する当事者と直接意見交換するために、学会を利用して「知ろう、語ろう、考えよう健やか親子21」の自由集会を実施し、地域での取り組みについて討議した。また、「健やか親子21」を踏まえた母子保健計画見直しの研修会を実施し、現場の状況を把握した。さらに、取り組みのデータベースの利活用について研修会を実施した。

C. 結果及び考察

1. 2002年度における健やか親子21ホームページ運営・利用状況

(薬袋淳子、山田七重、武田康久、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎)

健やか親子21ホームページの運営・利用状況を把握した。運営状況としては、特に独自のコンテンツである取り組みの目標や、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベース等を中心として、各コンテンツの内容が少しずつ充実されていた。

利用状況としては、ホームページのコンテンツの中で、母子保健・医療情報データベース、健やか親子21とは、最新情報&掲示板、取り組みのデータベース、取り組みの目標の順で多く利用されていることがわかった。また、アクセス数の月

別の推移としては、ホームページのトップページをはじめ、取り組みの目標、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベースについては、それぞれ横ばい傾向であった。取り組み目標の図表ダウンロード数やグラフ活用率、取り組みのデータベースの取り組み状況へのアクセス数に関しては、増加傾向が認められた。また、ホームページへの情報提供も活発で、特にイベント開催案内について多くの情報が寄せられていた。以上より、ホームページの利用が活発化してきていることが、推測された。

2. 取り組みのデータベース改良に向けての取り組み

(山縣然太郎、松浦賢長、長瀬博文、玉腰浩司、水谷隆史、近藤尚己、薬袋淳子、山田七重)

健やか親子21に搭載した「取り組みのデータベース」の活用に関して、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。そこで本研究班では、全国各地で母子保健研修会として、実際にデータベースの活用を実感してもらえようような機会を設け、データベースの充実を図ることを目指した。また、研修会を通して現場の母子保健関係者の声を聞き、データベースのシステムを改良し、2003年4月より使いやすさを重点におき、更に充実したデータベースとして公開することを目指した。

2003年3月までに、4か所で研修会を開催し、計61名の参加者を対象としてワークショップを行った。参加者の感想から、研修会を通して、データベースの重要性を理解してもらえたことがわかった。また、利用者の視点から取り組みのデータベースに関する問題点が明らかとなった。これらの意見を踏まえてデータベースの改良を進めていく予定である。

3. 知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21自由集会報告—テーマ 現場に生かすホームページの活用—

(山縣然太郎、小田心火、松浦賢長、長瀬博文、

山田七重、葉袋淳子、中村和彦、水谷隆史、近藤尚己、大森智美、白石裕子)

第61回日本公衆衛生学会総会の自由集会にて、昨年に引き続き「知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21 その2」を開催した。この集会の目的は、昨年度本研究班で構築した「健やか親子21 ホームページ」や、ホームページに掲載した「(健やか親子21に関する) 取り組みのデータベース」に関して、現場に生かせる活用方法について、これに関わる関係者が全国から広く集い、現状について知りあい、課題について語りあい、考えあうことを通して、「健やか親子21」の推進に寄与することであった。全国より保健師や大学関係者を中心として昨年を大きく上回る57名という参加者を得、有意義な意見交換の場とすることができた。

4. 乳幼児の誤飲に対する介入の中間報告及び健診を用いた事故の情報システムによる小児事故の実態

(山中龍宏、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎)

山梨県塩山市のフィールドを用いて、平成13年9月より誤飲チェッカーを用いた乳幼児誤飲防止プログラムによる介入研究を行った。開始後1年以上経過し、誤飲チェッカーの利用状況について中間報告を行う。

平成13年9月から14年5月の間に、3か月健診と7か月健診の両方を受診した乳児162名の中で、89人(55%)が誤飲チェッカーを利用したと回答した。誤飲チェッカーを使用していない理由としては、「気をつけているから大丈夫」(27名)が最も多く、続いて「チェックするのが面倒」(14名)であった。また、使用することが面倒という回答もあり、この2つの理由で62%が占められていた。また、誤飲チェッカーを使用している保護者からは、比較的使いやすい教材であり、利用者の83%が、実際にチェックして乳幼児の口に入るものを移動させていた。乳幼児の誤飲は保護者がちょっと目を離したすきに発生しており、気をつけているというだけでは予防することはできない。3-4か月健診時に、あと2か月もすれば誤飲が起こるということをしっかり認識してもらい指導が必要であり、また半数弱の利用しない対象者に対する対応が必要であることが判明した。

来年度に判明する誤飲の発生状況の変化についての結果が期待される。

5. 児童・思春期不適応の予防を目的とした母子メンタルヘルス活動のあり方についての研究 (近藤直司、青木 豊、河西 文子)

本研究は、不登校や社会的ひきこもり、暴力、非行など、児童・思春期における不適応問題の予防対策を検討することを目的としている。とくに、将来の精神病理学的リスクと考えられる問題に対する早期支援として、①子どもの心理社会的発達、とくに軽度発達障害をもつ子どもと親への早期支援、②母親のメンタルヘルス上の問題、とくに抑うつ状態を示す母親への早期支援、③母子の関係性、とくに適切な母子の相互交流を促進するための早期支援、という三つの観点から検討する。今年度については、②③の途中経過について報告する。

6. 1歳6か月健康診断受診児の事故経験歴に関する調査 (谷原真一)

【目的】1歳6か月児の事故経験頻度(生後1年6か月間の累積罹患率)を明らかにする。

【方法】平成14年5月から12月にS県H市が実施した1歳6か月児健康診査(以後、健診と表記)の受診対象児全てを調査対象とした。事故の種類毎に経験の有無(経験した場合は経験回数と経験時の年齢)、事故の原因、事故発生時の対応などに関する自記式調査票を健診の通知と同時に送付し、健診会場にて調査への同意の有無と記載内容を確認の上で調査票を回収した。

【結果】調査期間中の健診対象児は260名であった。期間中、健診を受診した者は248名であり、そのうち本調査に同意の上で調査票が回収できた者は239名(男107名、女102名)であった。何らかの事故を少なくとも1度経験していた者は全体の85%で、手や足をドアなどにはさむという事故を少なくとも1度経験した者の割合がもっとも高かった。事故によって医療機関を受診した経験を少なくとも1度有する者は17%であり、3名(1.4%)が複数回受診していた。医療機関を受診した事故45件のうち、もっとも割合が大きかったのは転落(19件、42%)であった。事故後の対応を事故の種類別に検討すると、医療機関を受診した割合がもっとも高かったものは、やけど

(24%)であった。

【考察と結論】本調査は過去の体験を質問紙によって調査していることから、記載者の記憶に残らない程度の事故、健診受診対象となるまでの死亡及び健診を受診しなかった者の事故経験については情報が得られていない。もっとも、調査対象者の92%から有効回答を得ており、1歳6か月児の事故経験状況をほぼ正確に反映していると考えられる。今後の事故予防対策のためには、年齢別、事故の種類別に原因を分析し、対応を実施する必要がある。

7. 市町村保健センターを対象としたヘルスケア・コンサルティングの実際に関する研究～健やか親子21計画立案に関する第2段階：市町村がイニシアティブをとる段階～

(松浦賢長)

過去にコンサルテーションをおこなった関係のクライアントから、アプローチを受け、新たな依頼内容について対応した。その結果以下のことが明らかとなった。(1)クライアントの依頼目的が整理されており、かつ具体的であったため、イニシャル・コンサルティングのフェーズのみならず、オリエンテーションと情報収集のフェーズにかかるコンサルテーション時間が大幅に減少する結果となった。(2)クライアントは、質問紙の開発とその調査対象および方法についての計画をすでに準備していたため、問題の明確化と仮説の構築のフェーズ、および、アクションの立案・実行にかかるコンサルテーション時間が大幅に減少した。(3)今回のクライアントがイニシアティブをとれなかったフェーズは、アクションのフィードバックのフェーズであった。これらの結果を受け、今後、新たなコンサルティング・システムの構築に際しては、「コンサルテーションがはじめての自治体に対する包括的コンサルティング」のみならず、「リピーター向けのアクションのフィードバックに特化したコンサルティング」の2種類のニーズがあることが考えられた。

8. 学校現場を対象にしたヘルスケア・コンサルティングの実際に関する研究

(松浦賢長)

養護教諭をクライアントとしたコンサルテーションをおこなった。依頼内容は子どものうつに

関するものであり、カウンタパート（コンサルティング提供側）の専門外の領域であった。今回、もっともコンサルテーションに関する時間が割かれたのは、問題の明確化のフェーズとアクション立案のフェーズであった。カウンタパートの専門外領域であるということに加え、子どものうつが注目されだしてまだ日が浅いこと、学校現場にうつに対するタブー視があること、などがその要因であると考えられた。ただし、アクションの実行、およびアクションのフィードバックのフェーズに関しては、コンサルテーションに関する時間は予測されていたものよりもはるかに短いものとなった。今回のコンサルテーション過程において、問題が明確になり、それらを共有していくにつれてコミットする意識がクライアントの中で高まっていったためだと考えられた。今後、コンサルティング・システムを構築していくに際し、クライアント側のコミットする意識を維持・増進する方策を確立していく必要があると考えられた。

9. 小学生における抑うつ度に関する研究～健やか親子21に関連したベースラインの把握を目的として～

(西能代、吉川りか、江壽和子、野村達哉、松浦賢長)

小学生において抑うつ度のベースラインを把握するための調査をおこなった。関西圏にあるA市内3校の小学校3年生から6年生の児童を対象とし、2003年2月に質問紙調査を実施した。対象者数は412人であり、うち397人(96.4%)から回答があった。結果を以下に示す。(1)先行研究(1996年)から、今回の調査までの7年間で、児童の抑うつ度が高まったと考えられた。(2)男女別平均値では女子がやや高く、先行研究と同様であった。(3)学年・男女別では、5年生の男子が7.0±4.4点で特に低い得点であった。(4)男女別のカットオフ・スコアを超えるものが占める割合については、男子6.8%、女子12.0%と、男子は低く、女子は高い割合になったことから、児童期にもすでに性差が表れ始めていると考えられた。

10. 妻の育児希望と妻からみた夫のエゴグラム得点との関連～少子化に寄与と思われる経済的因子以外の因子について～

(丸山智子、黒木ゆかり、児玉明子、宗里織、野

本啓子、徳善加奈子、樋口善之、松浦賢長)

既婚女性における子どもを持ちたいと思う意識と関連のある因子を探ることを目的とした。配偶者との関係に着目し、配偶者(夫)をどのようにとらえているかによって、挙児希望意識が異なるのではないかという仮説のもと、妻からみた夫のエゴグラムを解析した。対象は119名の既婚女性である。年齢を制御した偏相関係数を求めた。その結果、(1) 挙児希望意識と正の相関のみられたエゴグラム得点はNPであったのに対し、CP、A、FC、ACとは相関がみられなかった、(2) 今後の子ども希望数と負の相関のみられたエゴグラム得点はFCであったのに対し、CP、NP、A、ACとは相関がみられなかった、(3) 現在の子ども数と今後の子ども希望数を合算したもの(総子ども数)と相関のみられたエゴグラム得点はなかった、(4) 現在の子ども数と正の相関のみられたエゴグラム得点はACであったのに対し、CP、NP、A、FCとは相関がみられなかった、という知見が得られた。(妻における)夫についての捉え方と挙児希望のあいだには何らかの関連がみられるという示唆が与えられた。

11. 情報データベースの構築・評価に関する研究—心身障害研究・子ども家庭総合研究報告書データベースのインターネット上の公開について—

(中村敬、斉藤 進)

心身障害研究および子ども家庭総合研究事業における報告書のデータベース化は、昭和50年度～平成11年版度までを全文報告書として、CD版データベースを完成していた。しかしながら、インターネットの普及にともない、Web上での報告書データベースの公開が望まれている。本研究班では平成12年度以降の子ども家庭総合研究事業報告書データベース化を進めている。昨年度は、集積してある研究報告書の電子データのうち、平成元年度版から11年度版までの電子データをインターネット上で公開するためのファイルとして再構築を行った。今年度は、平成12年度および13年度版研究報告書のデータベース化に取り組み、来年度以降インターネット上での公開が可能になった。Webは母子愛育会日本子ども家庭総合研究所のサーバーを介して、報告書データを提供する

システムを構築し、試行段階に到達している。今年度はこの概要について紹介する。

D. 結論

情報の集積・評価・活用について、地域での研修会およびホームページによるマーケティングリサーチによりその課題を把握できた。また、介入研究によってその効果について良好な結果を得た。これにより、継続的な地域マーケティング・リサーチ、介入研究といった一連の流れを一般化し、地域レベルにおいて、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施を即応的に行い、その評価をフィードバックするヘルスケアシステム・手法のプロトタイプの作成に向け重要な情報を獲得できた。

E. 研究成果

<雑誌>

1. 山縣然太郎:「健康日本21」と「健やか親子21」健康教育の周辺 いま押さえておきたいトピックス30. 健康教室. 12-19. 2003.
2. 松浦賢長: 教師を配偶者に持つ教師の育児・子育て経験および意識に関する研究—関西圏のある県における調査から—. 母性衛生. 43(1): 60-66. 2002.

<学会発表>

1. 山縣然太郎、武田康久、山田七重、薬袋淳子、松浦賢長、玉腰浩司、長瀬博文、山中龍宏、中村和彦: 健やか親子21公式ホームページの構築に関する研究. 第49回日本小児保健学会講演集. pp252-253. 2002.
2. 松浦賢長、白石裕子、玉腰浩司、長瀬博文、山田七重、武田康久、山縣然太郎: 地域母子保健と学校保健の連携の現状に関する研究—全国市町村を対象とした調査より—. 第49回日本小児保健学会講演集. pp470-471. 2002.
3. 松浦賢長、白石裕子、玉腰浩司: 学校における性教育をめぐる連携状況および教員養成大学における性教育開講状況に関する研究. 母性衛生. 43(3): 131. 2002.
4. 山田七重、松浦賢長、中村和彦、山縣然太郎: 健やか親子21推進におけるホームページの役割. 学校保健研究. 44: pp468-469. 2002.

5. 山田七重、武田康久、水谷隆史、近藤尚己、葉袋淳子、松浦賢長、中村 敬、玉腰浩司、長瀬博文、山中龍宏、近藤直司、中村和彦、大森智美、山縣然太郎：健やか親子21公式ホームページのアクセス状況に関する研究。日本公衆衛生雑誌。49：198。2002.
6. 中野美幸、根津直美、水谷隆史、武田康久、山中龍宏、山縣然太郎：塩山市における乳幼児誤飲事故防止の取り組み。日本公衆衛生雑誌。49：647。2002.
7. 白石裕子、松浦賢長、山縣然太郎：50歳代及び60歳代の女性における育児支援者としての潜在的可能性に関する調査—地域行事への参加との関連を中心に—。日本公衆衛生雑誌。49：649。2002.
8. 山田七重、武田康久、水谷隆史、近藤尚己、葉袋淳子、中村和彦、山縣然太郎：健やか親子21ホームページの一年間のあゆみ。山梨小児保健学会。in printing.
9. 谷原真一、藤田委由、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎：1歳6か月健康診断受診児の事故経験歴に関する調査。第13回 日本疫学会学術総会講演集。178。2002.
10. 近藤尚己、水谷隆史、山中龍宏、武田康久、山縣然太郎：「誤飲チェッカー」を用いた乳幼児の誤飲防止プログラムに関する研究—山梨県塩山市における小児事故対策に関する介入研究中間報告—。第13回 日本疫学会学術総会講演集。178。2002.
3. web上でのデータベース運用「健やか親子21 取り組みのデータベース」。<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/database.php3>。2001.
4. 健やか親子21ホームページ取り組みデータベース版（マニュアル）。2002.

<イベント等>

1. 第61回日本公衆衛生学会 自由集会。知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21 その2—現場に生かすホームページの活用—。2002.10.23。18：00-20：00。埼玉
2. 第61回日本公衆衛生学会 紹介ブース。健やか親子21ホームページの活用。2002.10.23-25。埼玉。
3. 山梨県母子保健研修会。2002.12.24。13:00-16:00。山梨。
4. 砺波市母子保健計画研修会。住民の意見をもとに、地域母子保健課題を把握する体験とデータベース活用方法の習得研修。2003.1.20-21。富山県砺波市
5. 名張市母子保健計画研修会。第6回伊賀地域健やか親子21の推進のためのセミナー 住民の意見をもとに、地域母子保健課題を把握する体験とデータベース活用方法の習得研修。2003.2.20。三重県名張市
6. 出雲市母子保健計画研修会。小児の事故予防研修会。2003.3.5。島根県出雲市

<関連記事>

1. 山縣然太郎：「健やか親子21」HP開設。医療情報データベース 市町村の取り組み紹介。教育医事新聞。2002.5.25.
2. 近藤尚己、山縣然太郎：「誤飲チェッカー」で乳幼児の誤飲防止を。Medical Tribune。2003.2.20

<ホームページ関連>

1. web上でのデータベース運用「母子保健・医療情報データベース」。<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp>。2001.
2. ホームページ運用「健やか親子21ホームページ」。<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>。2001.

2002年度における健やか親子21ホームページ運営・利用状況

薬袋淳子、山田七重、武田康久、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎
山梨大学医学部保健学Ⅱ講座

健やか親子21ホームページの運営・利用状況を把握した。運営状況としては、特に独自のコンテンツである取り組みの目標や、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベース等を中心として、各コンテンツの内容が少しずつ充実されていた。

利用状況としては、ホームページのコンテンツの中で、母子保健・医療情報データベース、健やか親子21とは、最新情報&掲示板、取り組みのデータベース、取り組みの目標の順で多く利用されていることがわかった。また、アクセス数の月別の推移としては、ホームページのトップページをはじめ、取り組みの目標、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベースについては、それぞれ横ばい傾向であった。取り組み目標の図表ダウンロード数やグラフ活用率、取り組みのデータベースの取り組み状況へのアクセス数に関しては、増加傾向が認められた。また、ホームページへの情報提供も活発で、特にイベント開催案内について多くの情報が寄せられていた。以上より、ホームページの利用が活発化してきていることが、推測された。

A. 研究の目的

健やか親子21の推進を目指した、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために、健やか親子21公式ホームページを作成、運営している。2001年5月に公開、2003年2月末日現在、約125,000件のアクセスを達成している。

本研究では、主にこの2002年度のホームページの運営状況及び利用状況の変化について報告する。ホームページには多くの内容（コンテンツ）が存在する中で、それぞれの利用状況について解析することで、より必要度の高いコンテンツを明確にし、ユーザーの情報ニーズを把握することを目的とする。尚、2001年度までの運営状況については、昨年の報告書で「健やか親子21公式ホームページの利用度に関する研究」に報告した。

B. 研究の方法

健やか親子21公式ホームページ

(<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>) を2001年5月に公開し、山梨大学医学部保健学Ⅱ講座にて、日々コンテンツの充実やタイムリーな情報発信を目指して運営している。このホームページの運営・利用状況を以下の方法で、把握した。

1. ホームページの運営状況

ホームページの更新は細かいものは年間100回

以上にも登る。この内、比較的大きなものについては、ホームページ内の更新履歴及び最新情報&掲示板に記録している。また、ホームページには研究班において、独自に構築した2つのデータベースを搭載している。一つは母子保健行政の一次資料となる2800余の疫学調査を中心とした母子保健・医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子21」の取り組み状況データベースである。母子保健・医療情報データベースはホームページ公開時より運営されているが、取り組み状況データベースは、2001年12月末に暫定版を公開し、2002年3月より本格稼働したものである。この二つのデータベースについては、それぞれの主たる管理者がデータ数等の記録・管理を行っている。これらの記録により、ホームページの運営状況について把握した。

2. ホームページの利用状況

利用状況を把握するための指標として、アクセス数を把握するためのシステムを昨年度より整備している。

このシステムでは、サーバ上で稼働しているプログラムが、常時アクセス状況を記録している。記録内容はコンテンツ及び日時毎のアクセス数である。これらの記録を元に集計するプログラムを

定期的に稼働させ、集計結果をサーバ内の一般から閲覧できる場所に保存している。毎月1日には、前月のアクセス数が集計されることになっている。本来であれば、これらのシステムによって、アクセス元のURLが記録され、どこからのアクセスが多いのか、ということの把握も可能となるが、このホームページのサーバは山梨大学医学部のサーバの中に置いてあるため、山梨大学医学部へのアクセスと混同しており、把握は現段階では非常に困難である。この点は、来年度の課題の一つである。

上記のシステムにより、現段階においては、2001年10月以降の各コンテンツへのアクセス数を正確に把握している。また、2001年5月から10月までについてもアクセス数を把握しているが、正確性に欠ける部分があり、それについては解析対象から除外した。

2002年度には、これらの記録を効率的に処理する方法論を考案し、現在2003年1月までの、アクセス数を把握・処理している。これらの方法により、コンテンツ毎のホームページの利用状況を把握した。

3. ホームページの主なコンテンツ

表1に健やか親子21ホームページの主なコンテンツを示した。コンテンツは、おおまかに、健やか親子21の概要等の基本情報、運営側からのお知らせや利用者からの情報提供等を目的とした情報交換のページ、より詳細な情報へとリンクしているリンクページ、及び独自ページの4種類に分けられる。

表1 ホームページの主なコンテンツ

| | |
|------|---|
| 基本情報 | 健やか親子21とは：健やか親子21の概要を見やすくまとめたもの |
| | 全国大会：第1回全国大会（2001年6月）の記録を写真等で紹介 |
| | 班の概要：ホームページを運営・管理している研究班の概要 |
| 情報交換 | 通知文：厚生労働省からの通知文書を掲載 |
| | 母子保健研修会（お知らせ）：運営側からの至急のお願い・連絡事項等を掲載（現在は母子保健研修会の要項を掲載） |
| | 情報提供コーナー：利用者や推進協議会参加団体からイベント情報を提供する |
| | 健やか親子21推進協議会：推進協議会の規約・体制・議事録・取り組み内容の詳細（団体のホームページにリンクしている） |

| | |
|-----|---|
| リンク | 最新情報&掲示板：講演会・研修会等のイベントをリアルタイムで紹介 |
| | 課題別資料：健やか親子21の4つの課題別にホームページで提供している資料を紹介 |
| | 関連リンクページ：健やか親子21関連団体のホームページを課題別に掲載 |
| | 健やか親子21検討会議事録：旧厚生省の検討会全9回の議事録（厚労省リンク） |
| 独自 | 報告書：健やか親子21検討会の報告書（厚労省リンク） |
| | 母子保健統計：都道府県・市町村のすがたデータベース（厚労省リンク） |
| | 取り組みのデータベース |
| | 母子保健・医療情報データベース |
| | 健やか親子21取り組みの目標 |

表2に独自コンテンツの概要について示した。独自のコンテンツとしては、取り組みの目標（健やか親子21の目標値の図表を独自に作成して掲載。利用者がダウンロードして活用できる。）母子保健・医療情報データベース（近年約10年間の母子に関する調査・研究について、概要を把握できるように独自にまとめたもの。）、取り組みのデータベース（地域の母子保健計画や、事業の詳細な内容について検索できるようになっているもの。）の3種類がある。

表2 独自コンテンツの概要

| | |
|--|--|
| 取り組みのデータベース | |
| ①取り組み状況 各自治体の健やか親子21に関連した計画（母子保健計画等）をPDFファイルで掲載。 | ②取り組みのデータベース 各自治体の健やか親子21の取り組みの情報（事業の内容や目的・背景・協力機関、連絡先等）を入力・検索・ダウンロードできるシステム。 |
| 母子保健・医療情報データベース | |
| 母子に関する調査・研究の概要（調査対象や回収率、質問表の公開状況、キーワード等）を把握できるようにまとめたシステム。さらに、詳細な情報がWeb上にある場合は、リンクをしている。主に近年10年間の文献情報が登録されている。 | |
| 取り組みの目標 | |
| 健やか親子21の課題別に取り組みの目標を掲載。各図表のダウンロードが可能。 | |

C. 結果及び考察

1. 健やか親子21ホームページの運営・利用状況

表3に健やか親子21ホームページの運営状況を示した。特に独自のコンテンツである取り組みの目標や、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベース等を中心として、各コンテンツの内容が少しずつ充実化されていた。

図1に健やか親子21ホームページのトップページへのアクセス数の推移を示した。ホームページのトップページへのアクセス数は、2003年1月には6,336件、16ヶ月間の累計で106,010件に達した。月別推移では、2002年7月位までほぼ毎月増加し、その後、横ばい傾向であった。

図2に主要コンテンツへのアクセス割合を示した。これは、2001年10月以降の累計アクセス数について、トップページへのアクセス数を100とした時の主要コンテンツへのアクセス率を算出したものである。これにより、コンテンツとして最もアクセスされているものは、母子保健・医療情報データベースであり、トップページを訪れた内の29.0%が、このコンテンツにアクセスしていることがわかった。次いで、健やか親子21とは、最新情報&掲示板、取り組みのデータベース、取り組みの目標の順にアクセス割合が高く、特に独自に作成したコンテンツが多く利用されていることがわかった。

2. 取り組み目標の運営・利用状況

2002年7月に、2001年度に実施されたベースライン調査を反映させた取り組み目標が、厚生労働省から発表された。これを受け、ベースライン値に関わる図表を独自に作成し、従来の図表と同様に、エクセルファイルでのダウンロードが可能な状態で、健やか親子21ホームページに掲載した。2002年2月には23であった図表が、現在では、50に登っている。

図3は、取り組み目標のトップページへのアクセス数と、50図表のダウンロード数を示したものである。取り組み目標のトップページへのアクセス数は、ここ数ヶ月は横ばいの傾向であるのに対し、ダウンロード数は、右肩上がり毎月増加していることがわかった。

図4には、取り組み目標のグラフ活用率の推移を示した。グラフ活用率は、ダウンロード数÷画像表示数×100より求めた値であり、図表（画像）を表示した人の内、ダウンロードした人の割合を意味している。このグラフ活用率は、明らかな増加傾向を示しており、2003年1月では、取り

組み目標の図表（画像）を表示した人の内、73.4%が図表をダウンロードしていることがわかった。この結果より、取り組み目標の図表が、次第に活発に活用されてきていることが推測された。

3. 取り組みのデータベースの運営・利用状況

取り組みのデータベースとしては、取り組み状況と、検索が可能な取り組みのデータベースの2種類がある。

取り組み状況では、各地域の健やか親子21に関連する事業計画（母子保健計画）について、PDFファイルで掲載している。これについては、2002年2月には、掲載が2地域であったものが、8・9月を中心として次第に追加され、現在では27地域が掲載（内2地域は地域のホームページにリンク）され、2地域が掲載準備中である。

検索が可能な取り組みのデータベースは、2001年12月末に暫定版を公開した。その後、2001年度に本研究班が実施した「健やか親子21の取り組みに関する調査（全国調査）」によって得られた各自治体の取り組み情報を、各自治体の許可を得てデータベースに登録し、2002年3月に本格運用を開始した。この時点でのデータ件数は2369件であった。

その後、厚生労働省の働きかけにより、一部の県で、取り組み情報のとりまとめをした地域があり、これについて許可を得て運営側で登録を行った。2002年5月末までに登録を終え、データ件数は2,685件となった。

このデータベースシステムは、実際に利用する人々が情報を提供し、活用していくものとして構築されたが、実際に運営側以外から入力されたデータは、極めて少ない状況であった。また、現在のデータ数は2713件に登っている。

図5に取り組みのデータベースへのアクセス数の推移を示した。取り組みのデータベースのトップページ（取り組み状況のトップページでもある）へのアクセス数では、検索可能なデータベースの暫定版が公開された2001年1月に急増し、3月で1度落ち込みが見られるものの、その後持ち直し、現在は横ばい傾向にある。

取り組み状況については、長く横ばい傾向が続き、掲載地域が大幅に追加された2002年8・9月頃より、各PDFファイルへのアクセス数は急激に増加し、さらに緩やかな増加傾向が見られた。

一方検索可能な取り組みのデータベースについては、暫定版が公開された頃より、横ばい傾向が続いている。

特に検索可能なデータベースの運営・利用状況について研究班で検討した結果、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。また、これに対応するために、取り組みのデータベースの改良への取り組みを始めた。全国各地（2003年3月末までに4か所）で、取り組みのデータベースに関する研修会を実施し、データベースの普及及び問題点・改良点の抽出を行った（「取り組みのデータベース改良に向けての取り組み」の項参照）。

4. 母子保健・医療情報データベースの運営・利用状況

母子保健・医療情報データベースは、2002年2月にデータ件数2,740件であったものが、次第に追加され、現在では2,831件となっている。また、データの件数からは見えてこないが、データ追加の他に、データ更新を行っている。特に、経年的に実施されている調査については、最新情報を既存のデータに加えている。また、新たに情報がWeb上に掲載された場合に、既存のデータにリンク情報を加えている。2002年3月以降現在までのデータ更新数は142件、リンク情報の追加数は792件に登る。

特にこの1年間で大きな変化としては、2002年10月に、国立保健医療科学院において作成された、厚生省の心身障害研究報告書データベース（昭和50年度から平成9年度の厚生省心身障害研究報告書をデータベース化したもので、全文を画像ファイルで閲覧できるもの）へのリンクが可能となったことである。これによって、母子保健・医療情報データベースの533件のデータにリンク情報が追加され、検索した文献の実物が、その場でディスプレイに表示できるようになり、母子保健・医療情報データベースの利便性が大きく引き上げられたといえる。

図6に母子保健・医療情報データベースへのアクセス状況を示した。トップページへのアクセス状況は、データベース公開以来、毎月2000件前後で横ばいの状況である。検索画面へのアクセス状

況は、2001年は月によって増減が激しく、特に傾向がみられないが、2002年に入ってからはやや安定した横ばい傾向が認められ、アクセス件数も毎月4,000件を超えることが多くなっている。

5. その他のコンテンツの運営・利用状況

その他としては、健やか親子21の関係機関から提供された情報や、運営側からの情報のリアルタイムでの提供があげられる。具体的には推進協議会の行動計画や、厚生労働省からの通知文、子ども虐待予防のための保健師活動マニュアル、母子保健研修会案内、心の健康問題ハンドブック、SIDS対策強化月間のお知らせ、その他各種イベントのお知らせ等である。常にリアルタイムで情報を提供できるようにこころがけた。

一方、健やか親子21ホームページに寄せられた意見について、表4に示した。イベントの開催案内や、リンクの依頼等が主な内容であり、2002年度は50件の情報や意見がホームページに対して寄せられた。特にイベントの開催案内については、昨年度から、情報提供数が増加しており、健やか親子21ホームページがより周知されたことが推測された。メール以外にも電話による問い合わせが随時あり、主な内容は母子保健研修会について教えて欲しい、健やか親子21のマークの使用法について知りたい等であった。寄せられた質問や意見に対しては、主任研究者の山縣が全件について対応した。

また表に示した他に、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課との情報のやり取りが非常に頻繁にあり、大きなやり取りだけでも約30件に登った。

D. まとめ

健やか親子21ホームページの運営・利用状況を把握した。運営状況としては、特に独自のコンテンツである取り組みの目標や、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベース等を中心として、各コンテンツの内容が少しずつ充実されていた。

利用状況としては、ホームページのコンテンツの中で、母子保健・医療情報データベース、健やか親子21とは、最新情報&掲示板、取り組みのデータベース、取り組みの目標の順で多く利用されていることがわかった。また、アクセス数の月

別の推移としては、ホームページのトップページをはじめ、取り組みの目標、取り組みのデータベース、母子保健・医療情報データベースについては、それぞれ横ばい傾向であった。取り組み目標の図表ダウンロード数やグラフ活用率、取り組みのデータベースの取り組み状況へのアクセス数

に関しては、増加傾向が認められた。また、ホームページへの情報提供も活発で、特にイベント開催案内について多くの情報が寄せられていた。以上より、ホームページの利用が活発化してきていることが、推測された。

表3 健やか親子21ホームページの運営状況

| 月 | 取り組みの目標 | 取り組みのデータベース | | 母子保健・医療情報データベース | その他 |
|-----|---------------|--------------------------|---------------------------------|----------------------------------|--|
| | | 取り組み状況 | 取り組みのデータベース | | |
| ～2月 | (24図表) | (2地域) | (暫定版公開) | (2740件) | |
| 3月 | | 1地域追加 3/5 | 本格稼働 3/11 (2369件) | (リンク数 339件) | 厚生労働省通知文追加 3/21 推進協議会1件追加 4/16 |
| 4月 | | | メンテナンス 4/11-22 | ↑35件追加、2件リンク (4/3-5/17 2775件) | 関係リンク1件追加 4/18 推進協議会行動計画掲載 4/26 |
| 5月 | 3図表追加 5/23 | 3地域追加 5/30 | ↑データ追加(運営側) (2685件) | | |
| 6月 | | 思春期保健福祉体験 事業状況掲載 6/14 | | | |
| 7月 | ベースライン更新 7/26 | | | 1件追加、2件更新 (6/25、7/15) | 虐待予防マニュアル掲載 7/2 推進協議会1件追加 7/10 関係リンク1件追加 7/11 厚生労働省通知文追加 7/17 |
| 8月 | | 8地域追加 8/7 | | 8件追加、29件更新 (2784件) | リンク先の修正 9/9 |
| 9月 | 23図表追加 9/13 | 11地域追加 9/4 | | | |
| 10月 | | 1地域追加10/15 | データ追加(依頼) (2687件) | 533件リンク 10/1 | 母子保健研修会案内 10/15 心の健康問題ハンドブック 掲載 10/22 |
| 11月 | | | | ↑7件追加、60件更新 (10/30-11/29) | SIDS対策強化月間案内 10/28 |
| 12月 | 図表修正 12/8 | 1地域追加 12/9 | ↑データ追加 (12/24-2/20 研修会にて) | 21件追加、26件更新 2件リンク 12/6-27 | 厚生労働省通知文追加 12/19 研修会開催案内・ 厚生労働省通知文追加・ 公開シンポジウム案内 1/29 |
| 1月 | | | | 18件追加、25件更新 | |
| 2月 | (50図表掲載) | (27地域) | (2713件) | (データ数 2831件) (リンク数 1131件) | 研修会報告書掲載 2/17 |

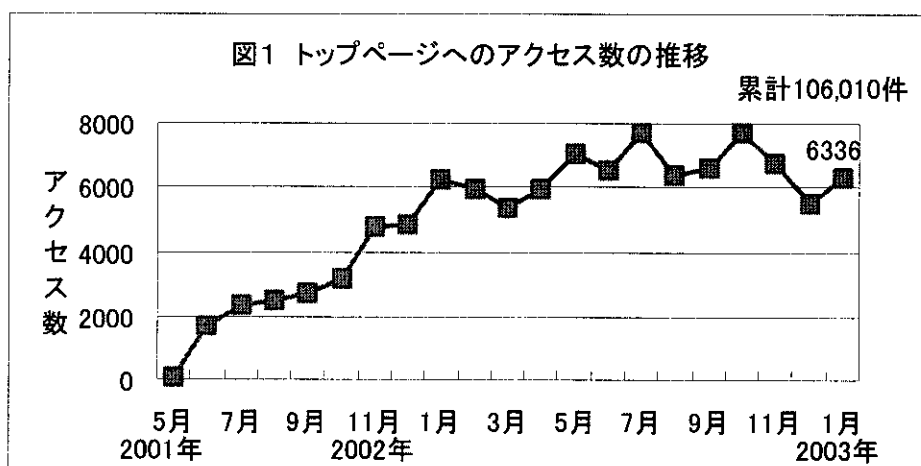


図2 主要コンテンツへのアクセス割合(16ヶ月間合計)

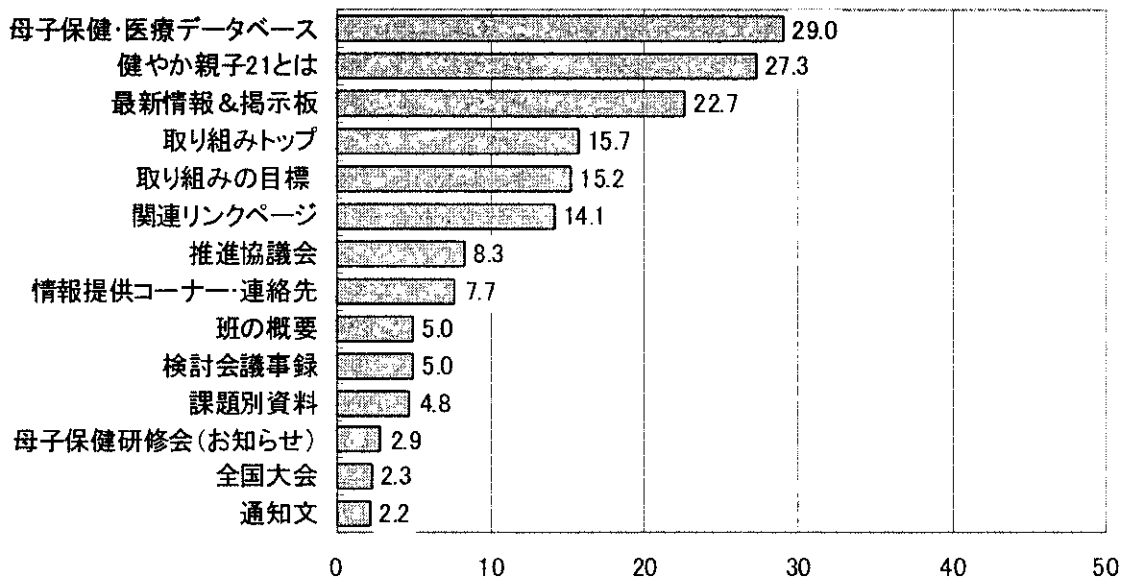


図3 取り組みの目標へのアクセス数及びダウンロード数の推移

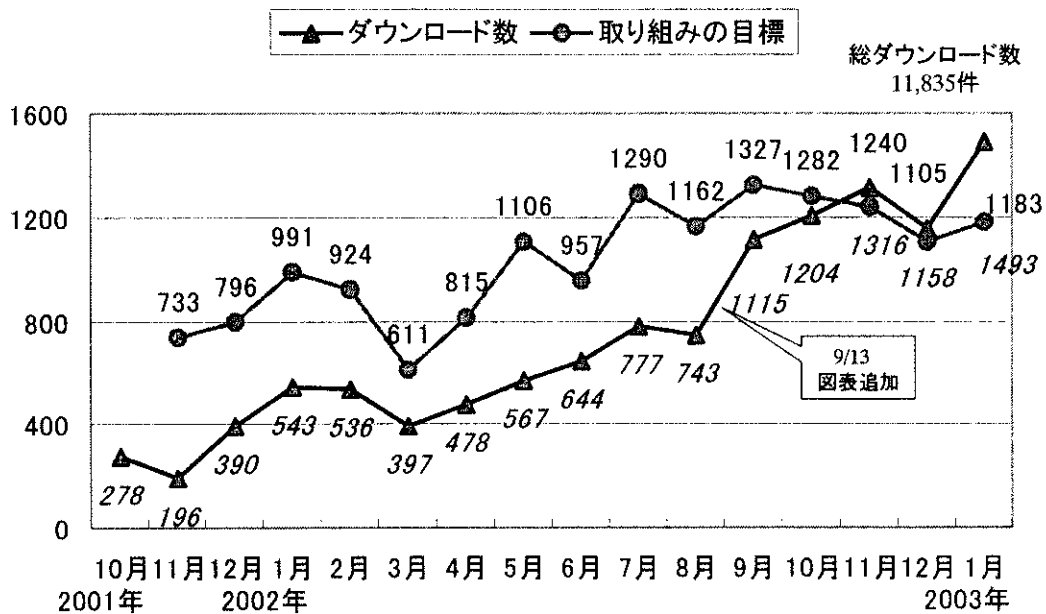


図4 グラフ活用率の推移

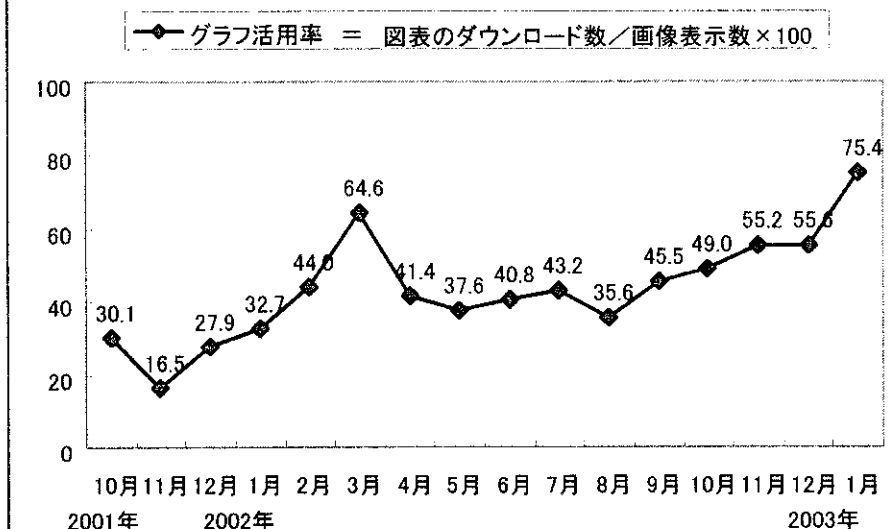


図5 取り組みのデータベースへのアクセス数の推移

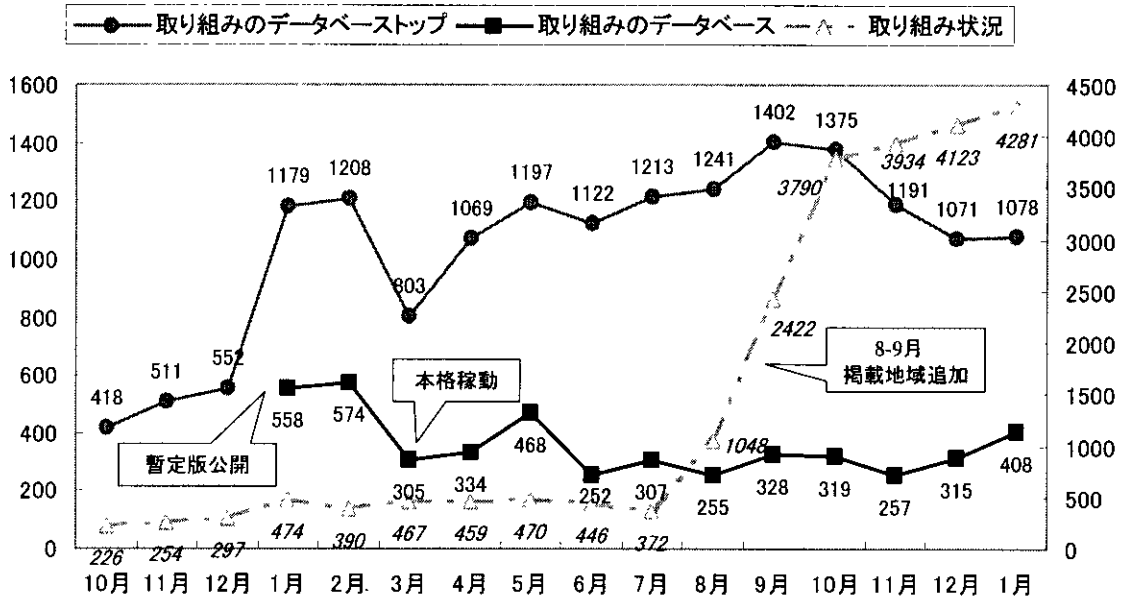


図6 母子保健・医療情報データベースのアクセス状況

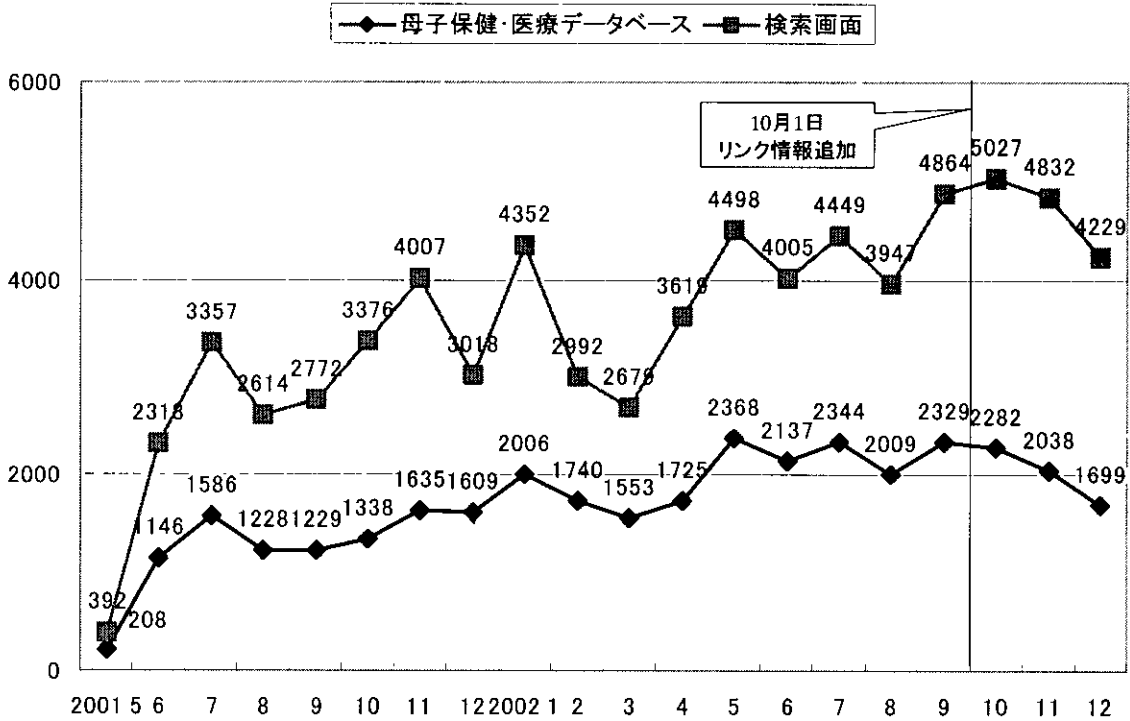


表4 健やか親子21ホームページに関して寄せられた質問及び意見

| 関連項目 | 2001年度 | 2002年度 | 2002年度の問い合わせの内容 |
|-----------------|--------|--------|-------------------------------------|
| イベント開催 | 8件 | 22件 | 健やか親子21に関するイベントの案内 |
| リンク | 17件 | 16件 | リンクを貼りたい／リンクを貼ってもらいたい／相互リンク／リンク名の変更 |
| 取り組みのデータベース | 0件 | 4件 | パスワードの問い合わせ（2件） |
| | | | 取り組み状況についての掲載依頼 |
| | | | データ削除の依頼 |
| 取り組みの調査 | | 2件 | IT利用状況 和歌山県の状況について知りたい |
| | | | ベースラインについて、群馬県の状況を知りたい |
| 取り組みの目標値 | 5件 | 1件 | 小児救急医療体制の整備の具体的な内容を知りたい |
| 母子保健・医療情報データベース | 2件 | 1件 | キーワードの誤字の指摘 |
| その他 | 10件 | 5件 | 小児期からの1型糖尿病の場合、何歳まで小児病棟に入院可能か |
| | | | パリスターキリアン症候群について情報交換できる場が欲しい |
| | | | シングルペアレント率を知りたい |
| | | | 麻疹の現状と対策についての情報提供 |
| 合計 | 44件 | 50件 | |

取り組みのデータベース改良に向けての取り組み

| | |
|-------|---------------|
| 山縣然太郎 | 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 |
| 松浦 賢長 | 京都教育大学衛生学 |
| 長瀬 博文 | 富山県衛生研究所環境保健部 |
| 玉腰 浩司 | 名古屋大学大学院公衆衛生学 |
| 水谷 隆史 | 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 |
| 近藤 尚己 | 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 |
| 山田 七重 | 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 |
| 葉袋 淳子 | 山梨大学医学部保健学Ⅱ講座 |

健やか親子21に搭載した「取り組みのデータベース」の活用に関して、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。そこで本研究班では、全国各地で母子保健研修会として、実際にデータベースの活用を実感してもらえるような機会を設け、データベースの充実を図ることを目指した。また、研修会を通して現場の母子保健関係者の声を聞き、データベースのシステムを改良し、2003年4月より使いやすさを重点におき、更に充実したデータベースとして公開することを目指した。

2003年3月までに、4か所で研修会を開催し、計61名の参加者を対象としてワークショップを行った。参加者の感想から、研修会を通して、データベースの重要性を理解してもらえたことがわかった。また、利用者の視点から取り組みのデータベースに関する問題点が明らかとなった。これらの意見を踏まえてデータベースの改良を進めていく予定である。

A. 背景

健やか親子21ホームページに搭載した「取り組みのデータベース」は、健やか親子21（母子保健の2010年までの国民運動計画）に関連して、都道府県、保健所、区市町村および関係団体が実施する母子保健サービスなどの取り組みのデータベースである。各関係機関における健やか親子21の進捗状況を把握するとともに、これを利用することによって、市町村等関連機関の連携を深め、健やか親子21の推進に役立てることを目的としている。

具体的には、一つの事業に関して、事業課題、事業の目的・背景、事業名、事業内容、取り組みのホームページ、検索キーワード、予算、予算源、利用料、事業対象、協力機関、提案者等に関する情報が登録されており、さらに、団体名、人口、出生数、保健師数、住所等の基本情報が登録されている。

これらの項目による検索も可能であり、人口規模や出生数、保健師数等、利用者の地域の事情に似た全国の取り組みを参考にすることもできる。これによって、優等生自治体による特別に優れた事業やユニークな事業だけでなく、少しの工夫と努力で、従来の事業が有効に展開できるような情報が得られるという意味において、有用であることが考えられる。

2002年1月に暫定版を公開し、2001年度に本研究班が実施した「健やか親子21の取り組みに関する調査（全国調査）」によって得られた各自治体の取り組み情報を、各自治体の許可を得てデータベースに登録し、2002年3月に本格運用を開始した。この時点でのデータ件数は2369件であった。

その後、厚生労働省の働きかけにより、一部の県で、取り組み情報のとりまとめをした地域があり、これについて許可を得て運営側で登録を行った。2002年5月末までに登録を終え、データ件数は2,685件となった。

このデータベースは、実際に利用する人々が情報を入力し、活用していくものとして考案されたが、実際に運営側以外から入力されたデータは、公開以来13件と極めて少ない状況であった。

この状況に対応すべく、取り組みのデータベースの活用に関して検討した結果、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。

B. 目的

以上の背景より、本研究班では、全国各地で母

子保健研修会として、実際にデータベースの活用を実感してもらえるような機会を設け、データベースの充実を図ることを目指した。また、研修会を通して現場の母子保健関係者の声を聞き、データベースのシステムを改良し、2003年4月より使いやすいデータベースとして公開することを目指した。本論文では、取り組みのデータベースの改良に向けての取り組みについて、報告することを目的とする。

C. 方法

2002年10月に母子保健研修会の開催要項「健やか親子21データベースってすごいんだね」を作成した。研修会の目的は、地域の取り組み情報をデータベースに入力・利用することにより、データベースの価値を体感し、現場に生かせる母子保健情報を得るための技術等を取得することとした。研修会のプログラムは、2部で構成されており、1部は各地域の要望に応じたテーマの講演またはグループワーク、2部は健やか親子21ホームページ活用のワークショップとした。講師は、地域から要望課題としてあげられたテーマを専門とする研究班の班員が担当し、それ以外の班員も、ワークショップのスタッフとしてできるだけ集うこととなった。

参加者には、事前に自分の地域の取り組み状況に関するデータを持ち寄ってもらう旨を伝え、研修時間を使って各地域の実際のデータを入力できるようなプログラムとした。

この開催要項を用いて、健やか親子21ホームページや、第61回日本公衆衛生学会総会の紹介ブース「健やか親子21ホームページの活用」、自由集会「知ろう・語ろう・考えよう 健やか親子21 その2—現場に生かすホームページの活用—」等の機会を通じて、企画への参加を呼びかけた。ワークショップの概要を本論文末に示した。

D. 結果及び考察

1. 研修会の開催・参加状況

研究班から呼びかけた結果、2002年3月までに、山梨県、砺波（富山県）、伊賀（三重県）、出雲（島根県）の4か所で母子保健研修会を開催させていただくことができた。各研修会におけるテーマ、及び参加人数、主な参加者の属性等については、表1に示した。本論文では、主に山梨県及び

砺波での研修会を中心に報告する。

2. データベースの充実状況

1) 件数の増加

1回目の山梨県での研修会では、研修会で入力したデータをWeb上で公開することへの了承を、上司から得ていないことが主な原因となり、登録されたものの多くが、Web公開を見合わせる結果となった。開催直後にWeb公開したのは6件と非常に少なく、その後、各地域で上司の確認を得た参加者の通知によって、少しずつWeb公開可の件数が増え、現在で11件となった。

2回目の砺波での研修会では、Web公開の了承を事前に上司から得ておくことを参加者に伝えた上で、行ったため、山梨県での研修会に比較すると、より多くの登録されたデータがWeb公開できるという結果となった。

3回目の伊賀での研修会では、各地域の取り組み状況に関するデータを持ち寄ってもらう旨の伝達が参加者まで届いておらず、正確なデータが手元にはないままの研修会となってしまったが、その後公開の準備に入っている。

4回目の出雲での研修会では、開催直後にWeb公開したのは10件でその後、修正・追加登録されている。

2002年3月現在で、公開されているデータの件数は、研修会四回を終えた時点で、38件（内2件は公衆衛生学会総会の自由集会時の事例発表時に入力してもらったもの）追加され、2,708件に登った。

2) アクセス数への影響の有無

研修会が、健やか親子21ホームページ（トップページ）や、取り組みのデータベースの検索画面へのアクセス数に与えた影響を見るために、アクセス数の日計を調べた（図1）。

健やか親子21ホームページへのアクセス数は、研修会の日時においてもほぼ横ばいの状態であり、特に影響は見られなかった。一方取り組みのデータベースの検索画面への日計では、山梨県・砺波での研修会実施日には、それぞれ1280件、1944件のアクセスが見られ、健著な増加が認められた。

取り組みのデータベースの検索画面へのアクセス数が研修会実施日に顕著に多くなることは、実際に研修会で実施しているので、当然のことであるが、研修会以外の普段のアクセス数や、参加者の数、あるいはスタッフの作業によるアクセス数